

診療科 一般外科

分類 大腸班：進行再発Irinotecan

1 / 1

レジメンNo. 19-SG014

休薬期間 13日

最大回数 999回

レジメン名称 ★IRIS療法(q4w)

RpNo	薬剤名/手技/コメント	1回投与量	速度指示	day(1)	day(2)	day(3)	day(4)	day(5)	day(6)	day(7)
01	持続末梢静脈維持ルートから 生理食塩液PL(フソー) ルートキープ	100ml	1瓶	09:00						
02	末梢静脈側管 点滴静注で 100ml/h/30分かけて デキサート注射液(1.65mg-0.5mL) [デカトロン] デキサート注射液「6.6mg-2mL」 [デカトロン] アロキシ静注(0.75mg-5mL) 生理食塩液PL(フソー) 50ml		2A 1瓶 1瓶 1瓶	09:30						
03	末梢静脈側管 点滴静注で 90分かけて リリテカ塩酸塩点滴静注液「100mg-5mL」 [トホデシ] 5%ブドウ糖注PL 500ml		100mg /m ² 1瓶	10:00						
04	末梢静脈側管 点滴静注で 生理食塩液PL(フソー) フラッシュ	50ml	1瓶	11:30						
終了										
レジメンNo. 19-SG014 レジメン名称 ★IRIS療法(q4w) レジメン参照情報 【併用薬】 ・S-1:80-150mg/day day1夕-day15朝 【併用薬(推奨)】 ・デキサメタゾン錠:8mg day2-3 または ・アプレビタントカプセル:125mg day1 ・アプレビタントカプセル:80mg day2-3 ※デキサメタゾン注射液(day1)は4.95mgへ減量										
レジメンコメント(医師専用)										

(アイリス) IRIS療法について

IRIS療法とは、ティーエスワン配合OD錠(テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合錠)という内服薬とイリノテカン(イリノテカン塩酸塩水和物)という抗がん薬による治療です。

標準的には4週間をひと区切り(1サイクル)として治療を行います。副作用や血液検査の結果によっては、治療の間隔が長くなることがあります。

《標準的な治療スケジュール》



《1日の治療の流れ》

薬の名称（成分）	薬の作用（注意事項）	時間
 ①内服薬 アプレピタントカプセル	吐き気止め (治療の当日は125mgを飲みます)	点滴 開始前
 ②注射薬 生理食塩液	点滴で薬を入れる血管を確保する	
 ③注射薬 アロキシ（パロノセトロン塩酸塩） デキサート（デキサメタゾン）	吐き気止め アレルギー予防	約30分
 ④注射薬 生理食塩液	点滴管の中の薬を全て体の中に入れる	約5分
 ⑤注射薬 イリノテカン (イリノテカン塩酸塩水和物)	がん細胞の増殖を抑える (点滴中や点滴直後に 腹痛・下痢を起こすことがあります。)	約90分
⑥注射薬 生理食塩液	点滴管の中の薬を全て体の中に入れる	約5分

《ティーエスワン配合OD錠の服用方法》

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
ティーエスワン 配合OD錠 ※医師が指定した 種類の薬を飲みます	20mg  25mg  包装形態 錠剤	がん細胞の 増殖を 抑える	点滴投与日の夕食後から 15日目の朝食後までの 2週間 、決められた錠数を朝食後と夕食後に飲んでく ださい。その後、次の点滴投与日から14日間は お休みになります。治療が延期となった場合は薬が 残っていても飲まないでください。 この薬と一緒に飲んではいけない薬がありますので、 医師または薬剤師に確認してください。

《点滴の翌日から必ず飲む薬》 予め医師から処方された吐き気止めを指示どおりに飲みましょう

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
アプレピタント カプセル80mg	 カプセル剤	吐き気止め	点滴の翌日から2日間、 朝食後に1カプセル飲んでください。

《主な副作用》

吐き気（悪心）・嘔吐

吐き気止めの飲み薬と注射薬を予防的に使用しますが、それでも吐き気（悪心）や嘔吐の症状があらわれることがあります。治療当日に多い症状ですが、翌日以降にみられることもあります。症状が強い場合は、次回に吐き気止めの薬を調節することができますので、医師に相談しましょう。

□対策1：なるべく水分をとるようにしましょう。

□対策2：食事は消化の良いものを少量ずつ数回にわけて食べるようにしましょう。

脱毛

治療を開始してから2～3週間後に髪の毛が抜け始めます。

治療が終了してから2～3か月後に再び生え始め、半年くらいで回復してきます。

□対策1：体調のいいときに、かつらや帽子を準備しておきましょう。

□対策2：シャンプーは刺激の少ないものを使いましょう。

下痢

腸の粘膜が薬により障害をうけ、下痢が起こることがあります。下痢が続くと脱水症状になりやすいので注意が必要です。

□対策1：なるべく水分をとるようにしましょう。

□対策2：食物繊維、脂肪分の多い食べ物、牛乳や乳製品、香辛料や炭酸飲料などの刺激物を避けましょう。

□対策3：定期的に体重を測定して、からだの変化をチェックするようにしましょう。

口内炎

口の粘膜が薬により障害をうけ、口内炎が起こることがあります。ティーエスワン配合OD錠を飲み始めて数日以内に下痢と同時に口内炎が現れた場合、特に注意が必要です。

□対策1：歯みがきを丁寧に行い、口の中を清潔に保ちましょう。

□対策2：うがいや水分補給をこまめに行い、口の中を乾燥させないようにしましょう。

□対策3：食事は味付けを薄くしたり、とろみをつけるなど工夫して摂りましょう。

感染症

血液の成分のひとつに、白血球があります。白血球は身体を細菌から守る役割をしています。しかし、治療によって白血球の減少がおこるため、細菌やウイルスに対する抵抗力が弱くなり、感染症にかかりやすくなります。白血球は治療後1～2週間で最も低くなりますが、その後、少しずつ回復していきます。

まずは日常生活で感染を予防することが大切です

□対策：手洗いうがいをこまめに行いましょう。また、人ごみに出るときにはマスクをしましょう。

《副作用が出始める時期》 ※これらの副作用が全て出るということではありません。

吐き気（悪心）・嘔吐、食欲不振
手足のしびれ、下痢、口内炎
アレルギー反応、点滴部位の痛み

治療中、当日～数日

吐き気（悪心）・嘔吐、口内炎
脱毛、下痢、感染症、全身のだるさ

数日～数週間

口内炎
目のかすみ・涙が出る

数週間～数か月